

第4回 病院のしくみ

日紫喜 光良

病院のしくみ

- 組織(構造)
- 業務の流れ(機能)

病院とは

- 医療法によれば、病院とは、「20名以上の患者を入院させるための施設を有するもの」
- それ以外のもの（例：マタニティークリニックや内科医院など）は、医療法では、「診療所」と定義されている。
- 有床診療所：20床未満の病床を有する診療所
- 無床診療所：病床を有しない診療所

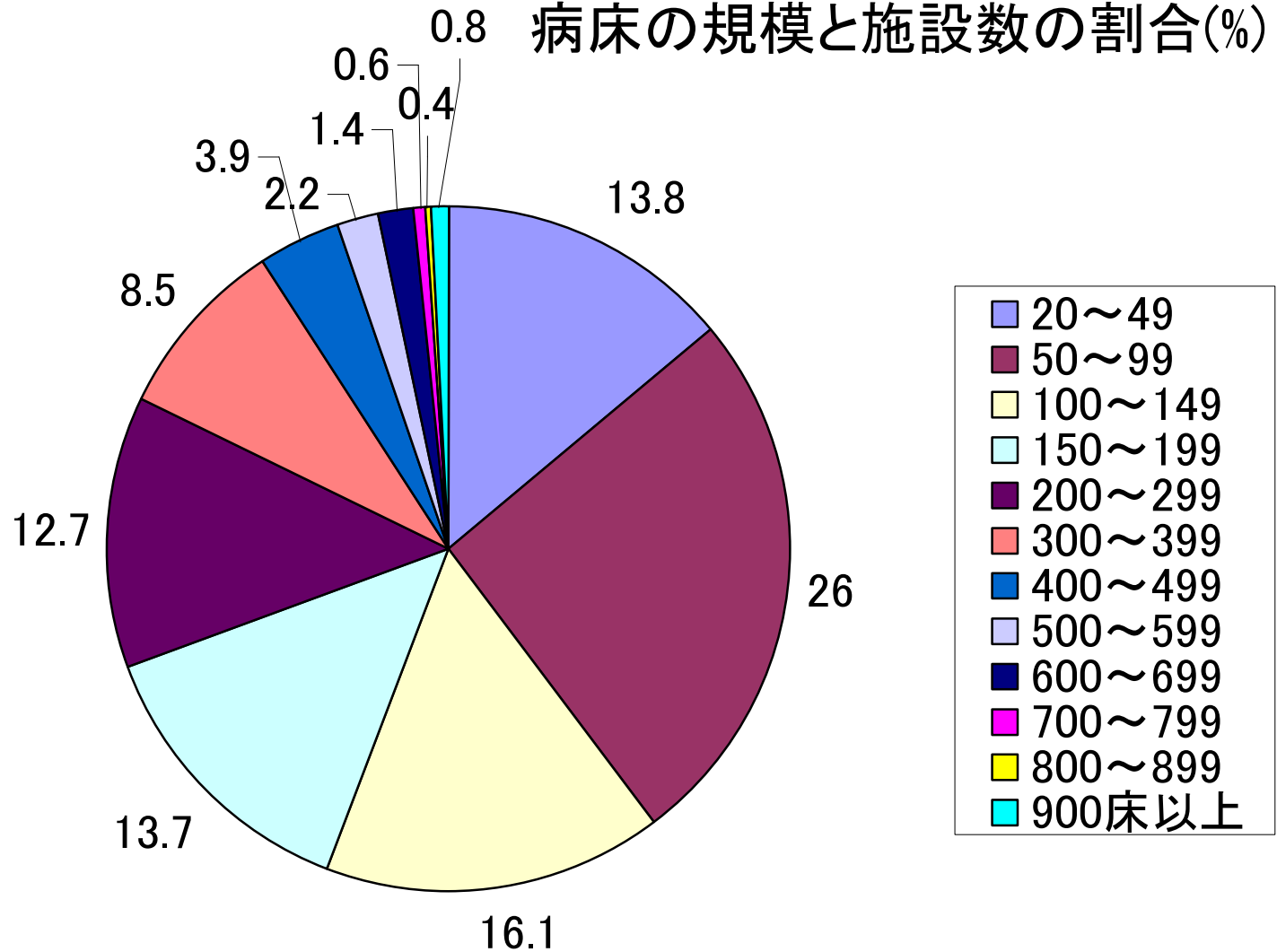
病院と診療所

- 病院：ベッド数20床以上。9,077施設(2004年)。⇒8,499施設(2014年)
 - 減少傾向
- 診療所(医院)：ベッド数19床以下。98,639施設(2004年)⇒10,873施設(2014年)
 - 有床診療所
 - 無床診療所

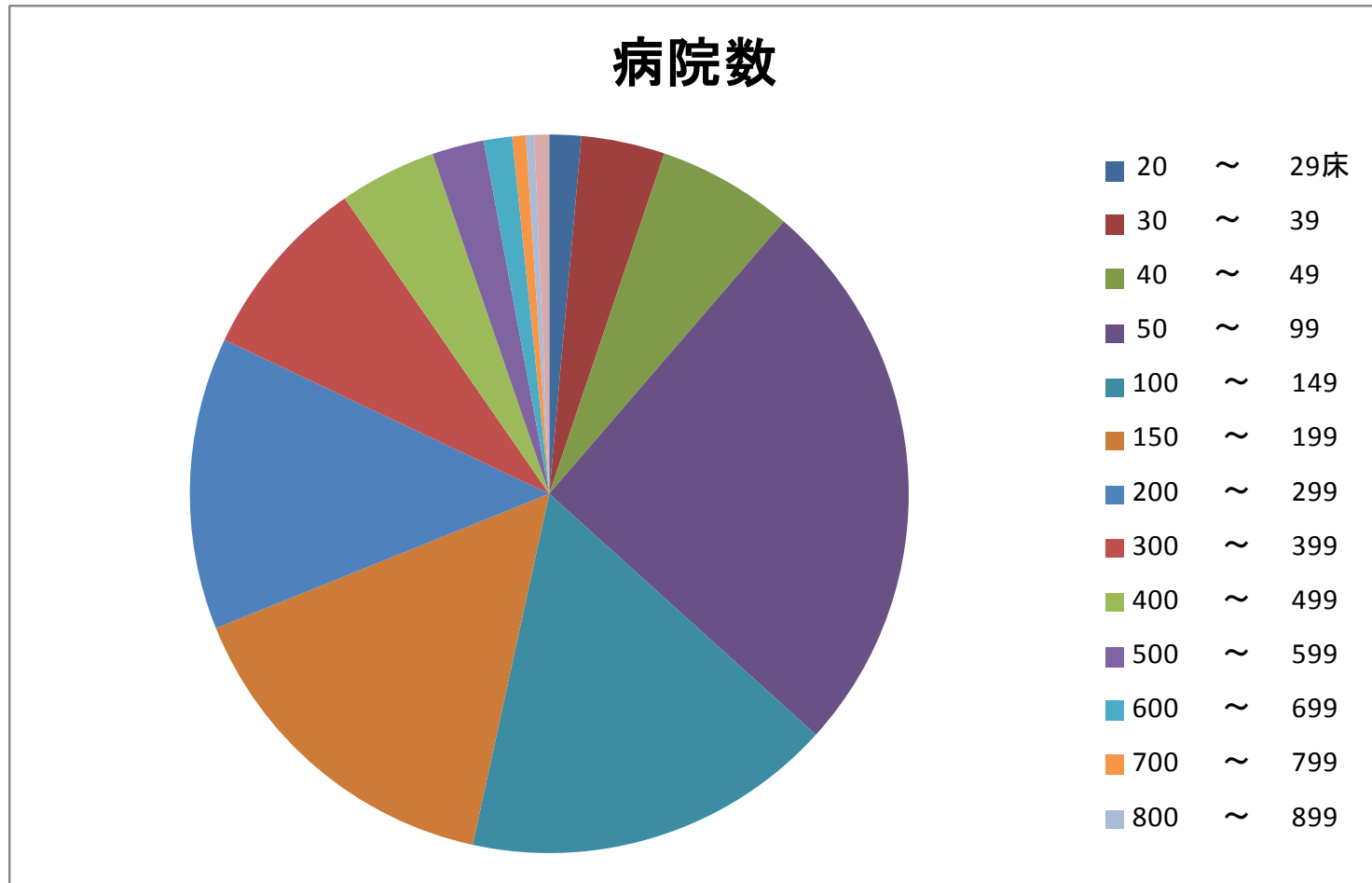
医療施設動態調査

病院の規模

病床の規模と施設数の割合(%)



病床数別病院数の割合(2013)



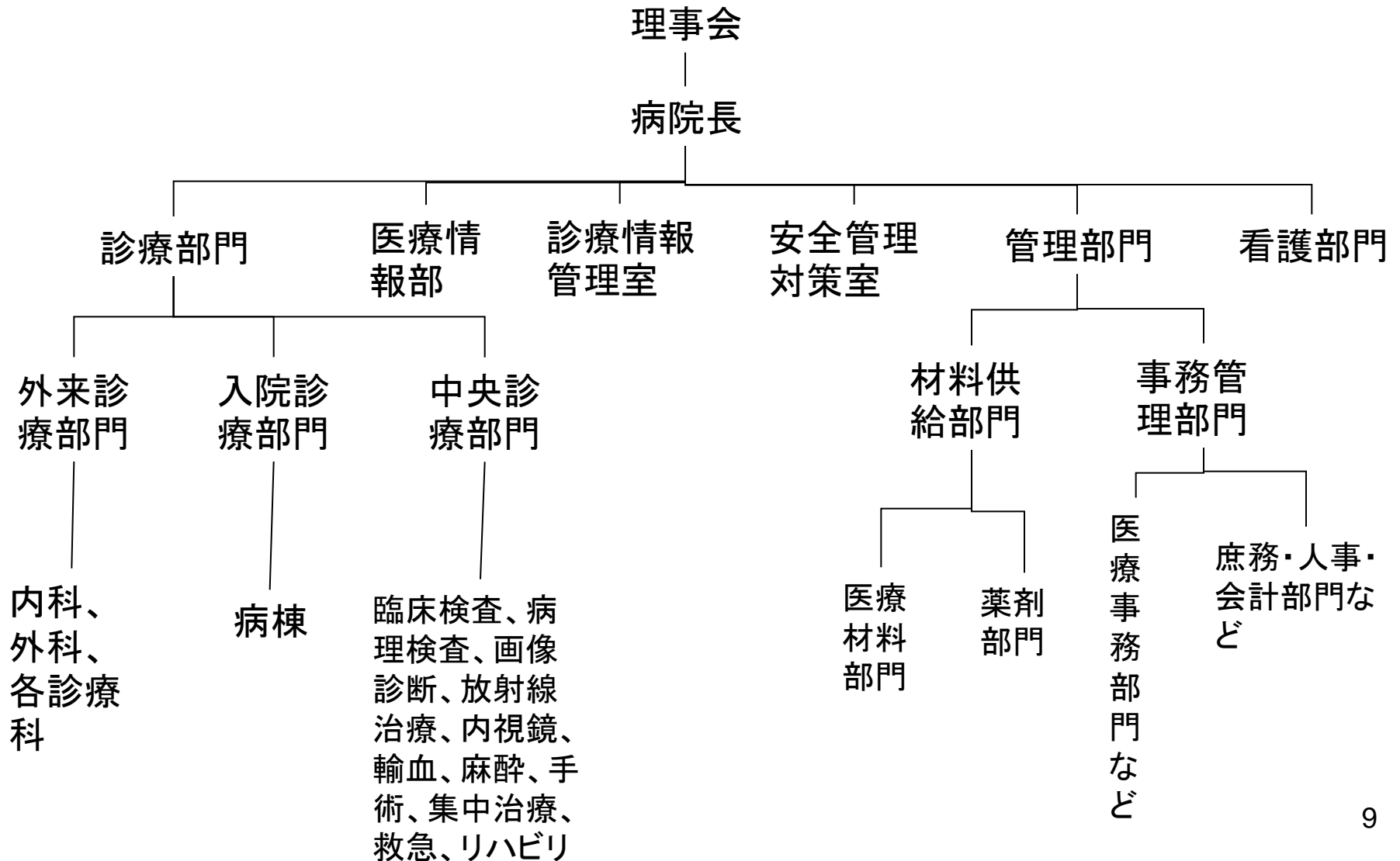
病院の組織

- 病院の一般的構造
- 病院の組織

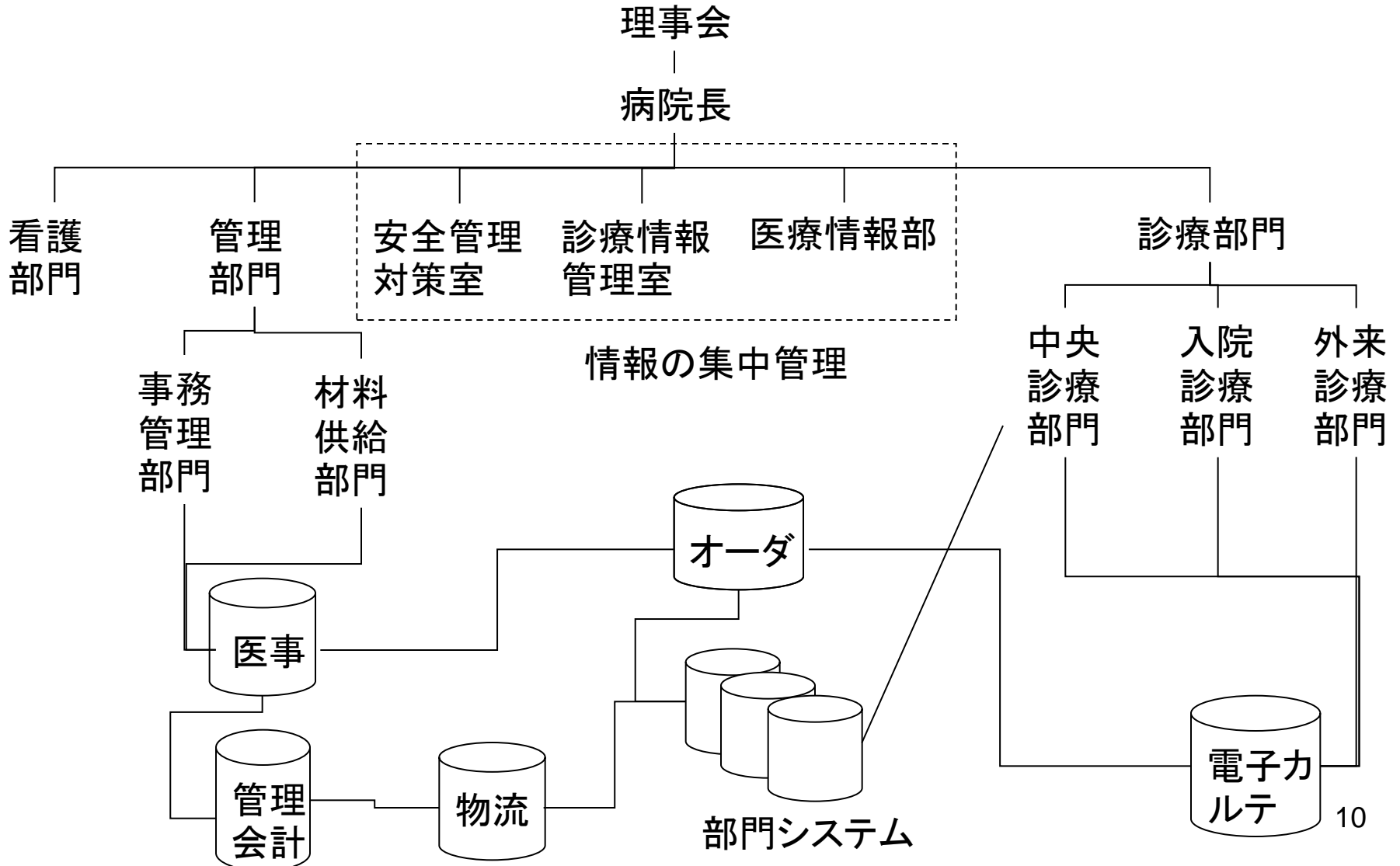
病院の一般的構造：全体

		病棟
		7階病棟
		6階病棟
		5階病棟
	中央診療棟	4階病棟
外来診療棟	手術部、救急部、集中治療部	3階病棟
診療科、カルテ室	検査部、輸血部	2階病棟
診療科、受付、薬剤部	放射線部、リハビリ部	1階病棟

人員配置からみた病院組織図の一例



システム構築からみた病院組織図の一例



部門システムの例

- 検査
- 薬剤
- 給食
- 放射線
- 手術
- 輸血
- 病理
- など

管理部門(1)

- 総務・人事
- 管理
 - 用度、物流、経理
- 医事
 - 医事会計、レセプト作成、福祉との連携
- 経営企画
 - 病院管理の視点から情報収集・分析・提言

管理部門(2)

- 機器
 - レセコン
 - 財務会計システム
 - 自動支払機、自動受付機、など
- 場所
 - 受付、事務室、地域医療連携室
- 特徴(取扱情報)
 - 診療内容の事務処理、レセプト作成
 - 診療に必要な諸物品の購入と会計管理

レセプト(診療報酬請求)

- 1ヵ月間の診療行為の集約。医療行為を金額に換算し、月初めに医事会計システムから出力。
- 審査支払機関に請求
- 審査の結果返戻、査定を受けることもある。
- 審査支払機関は決定額から一部負担金を除いた金額を保険者に請求し、医療機関に支払う。

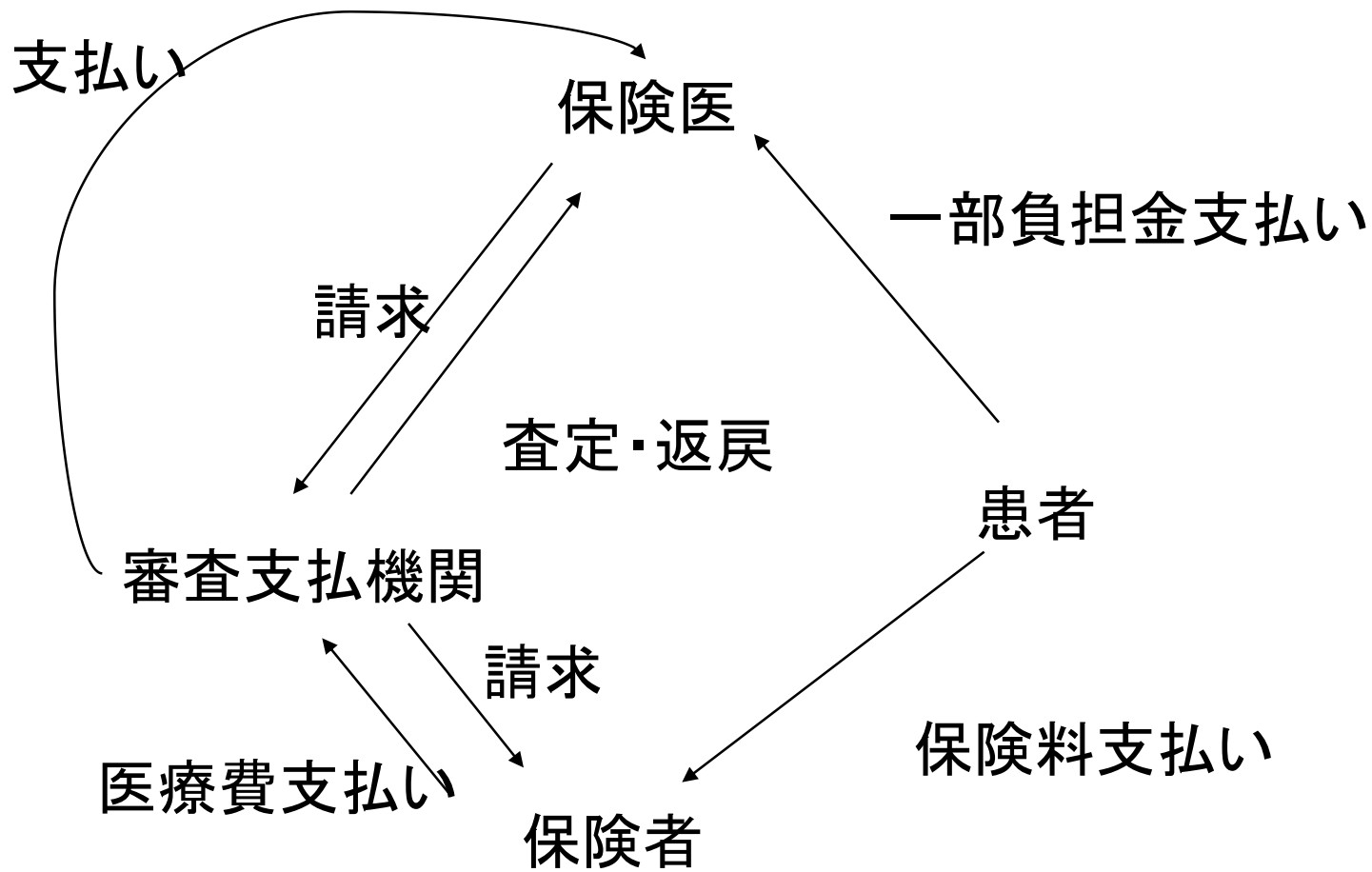
保険者

- 健康保険組合（組合健保）
- 社会保険庁（政府管掌）
- 自治体（国民健康保険）
- その他（労災保険など）

審査支払機関

- 支払基金(健保)
- 国保連合会(国保)
- レセプトの内容についての審査
- 診療行為の請求内容に疑義がある場合には、
返戻、査定をおこなう。

診療報酬請求業務の流れ



症状詳記

- 審査支払機関の査定・返戻に対して、保険医が請求内容の正当性を訴えるために提出する、病状についての詳しい説明。

レセプトオンライン化

- 平成20年度(2008)から一部の大病院で開始。
- 現在は紙媒体による請求方式と並存

臨床検査部門(1)

- 検体検査
 - 検査材料(検体)を臨床検査部門に送って検査する。
- 生理検査
 - 心電図、脳波、筋電図、超音波画像
 - 生体での電気信号(生体情報)を波形として検出
 - 超音波で画像を形成
 - 患者が検査室に行く。
- 細菌検査
 - 培養が必要で結果を返すのに時間がかかる。

臨床検査部門(2)

- 人員
 - 臨床検査医、臨床検査技師、看護師、事務
- 機器
 - 検体検査系：検体自動分析測定装置
 - 生理検査系：心電計、心臓超音波装置、スパイロメータ、脳波計、筋電計、など
- 運用
 - 依頼(オーダー)で業務が進められる

病理検査部門

- 疾患の種類(腫瘍、炎症など)を決定し、進行度を判断
- 検体は、手術室、病棟、外来で採取され、患者情報とともに病理検査部門に送付される。
- 標本作成
- 病理専門医や細胞診断士による診断
 - スクリーニング
 - 迅速診断:手術中
 - 確定診断
- 病理解剖

病理検査部門の業務の流れ

(検体採取) → 受付 → 標本作成 → 診断 → 確定診断

臨床医による

切り出し

一般病理組織診断

脱脂

特殊病理組織検査

包埋

術中迅速診断

薄切

組織を凍結させ、染色。

染色

15～30分で診断。

病理解剖(剖検)

細胞診断(細胞診)

肺がん、子宮がん検診など

病理検査部門の構成

- 場所
 - 病理検査室、細胞診診断室、病理解剖室
- 業務の流れ
 - 検体は臓器や組織で、依頼によって業務が進められる
- 人員
 - 医師(病理専門医、細胞診指導医)
 - 技師(細胞検査士)
 - 事務
- 機器
 - 標本作成用機器
 - 写真撮影装置、顕微鏡
 - 標本保管庫

放射線部門

照射録

- 放射線検査
 - X線検査、X線造影、CT、血管造影
- 核医学検査
- 放射線照射治療
- MRI検査
- (超音波検査を放射線部門で行う病院もある)

放射線管理区域

放射線部門の業務

- 検査
 - 体内の構造や機能を可視化し、診断や治療効果の判定に役立てる
- 治療
 - (a) 各種の放射線を用いて、直接、病的組織にダメージを与えて治療する
 - (b) 血管造影の手技などを応用して、画像診断装置を活用したintervevntional radiology (IVR)を行う。

IVR

- 検査機器を用いて体内の様子を可視化しながらカテーテル治療などをおこなうこと。

放射線検査部門の業務の流れ

オーダー受付 → 撮影 → レポート作成

診療放射線技師

放射線科医

臨床検査技師
(MRI, 超音波)

放射線部門で扱う情報

- 診療行為に関する情報
 - 照射録
 - どの患者に、いつ、だれが、どれだけの放射線を照射したかを記録するもの
 - 画像
 - フィルム、電子化された画像
 - 検査結果報告書(レポート)
- 設備の管理情報
 - 治療発生装置、RI医薬品、環境、健康など

届出書類と管理記録

- 施設管理に関わる届出関係の帳票
- 日常業務に関わる放射線照射量の記録や放射性物質の取り扱い記録
- 職員の放射線量管理区域への立ち入り記録や健康管理
- 講習実施に関する記録

手術部門

- 待機手術
- 緊急手術

- 麻酔を実施

- 清潔区域
- 清潔管理区域
 - ガウン、キャップ、マスク、スリッパ

- 役割分担
- 生体情報のモニタリング

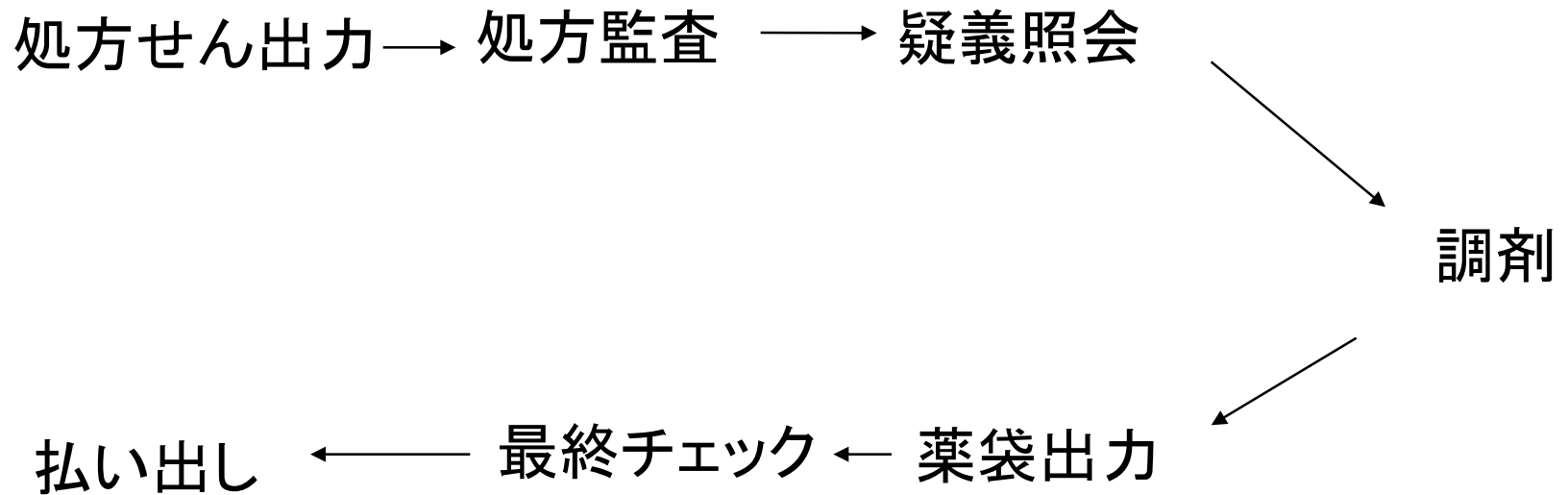
手術部門の特徴

- 多職種が同時に役割分担
 - 術者、助手、麻酔医
 - 介助ナース
 - 臨床工学士 など
- 多くの手術機械とME機器が配置
 - 麻酔器など
- 多くの生体情報をモニター
- 清潔管理区域で手術が施行される

薬剤部門（薬剤部、薬局）

- 調剤業務
 - 入院患者の処方
 - 処方監査
 - 疑義照会
- 服薬指導
 - 患者が医薬品を適正に用いることができるように、
医薬品に対する情報を与えて指導
 - 調剤時の情報提供義務（薬剤師法）

調剤業務の流れ



その他中央診療部門

- 救急部門
- 集中治療室(ICU)
- リハビリテーション部門
- 輸血部門

患者が常に直接出向く、もしくは、直接出向くこともある

- 中央材料部門
- ME部門
- 給食・栄養部門
 - 疾患食の提供
 - 栄養指導

患者が出向かない

医療情報部門

- ユーザ管理
- 機器管理
 - サーバ、クライアント、周辺機器、ネットワークスイッチ
- アプリケーションの稼動状況の管理
- マスタの維持・管理
- データのバックアップ
- 復旧作業、院内への対応の連絡
- 電子カルテシステムの開発、管理運営、維持

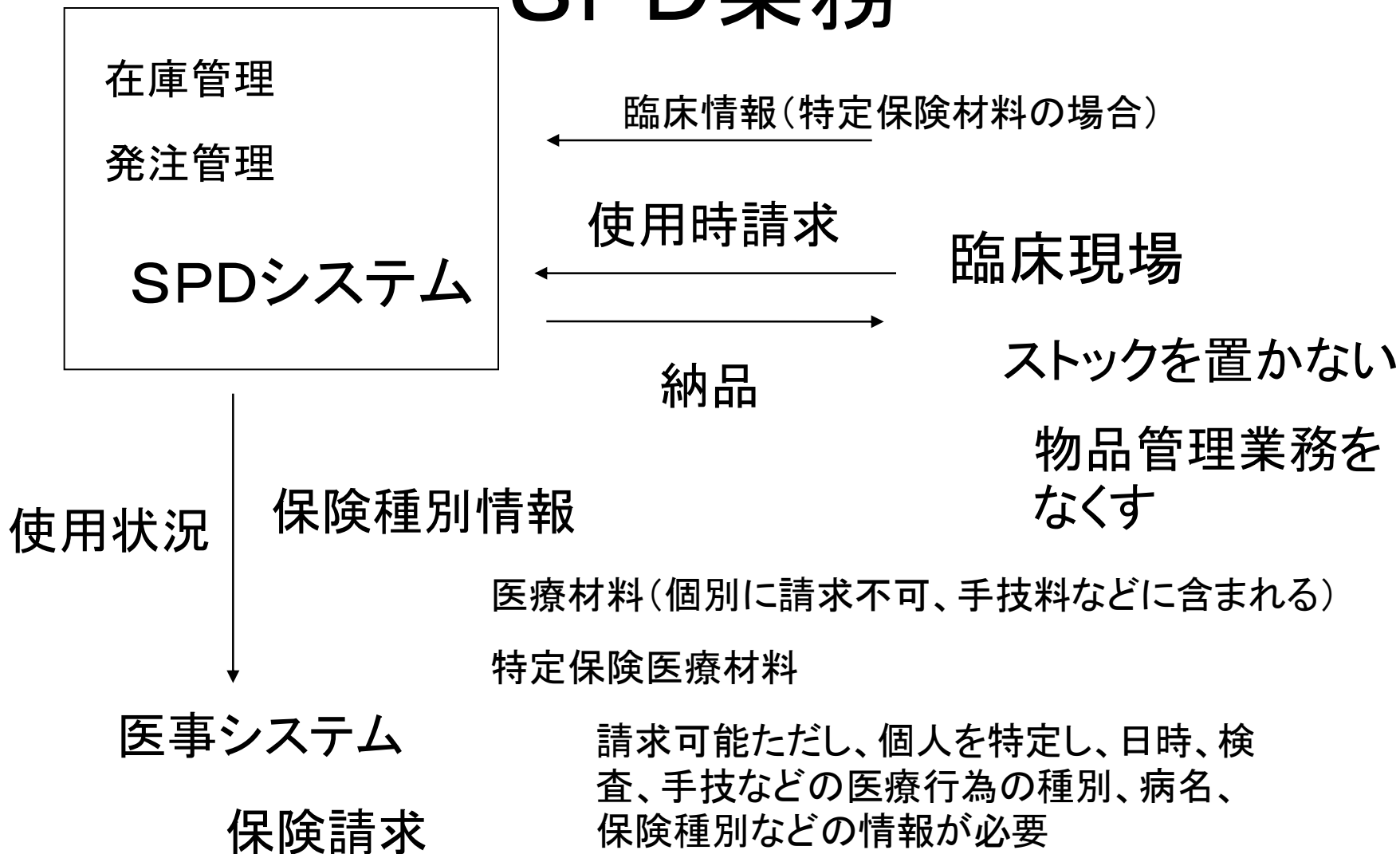
病歴管理

- 手書きの書類の管理
 - サインが必要なインフォームドコンセント関連の書類
- 法的根拠
 - 医師法(第24条、5年間の保存年限)
 - 医師法施行規則(第20条、死亡診断書、死体検案書の書式)

物流管理部門

- Supply Processing & Distribution (SPD)業務
- 物流管理を中央化・システム化(さらには外注化)して診療現場の物品管理を容易にする

SPD業務



職種横断的なチーム

- トータルクオリティマネジメント (TQM) の手法
- 感染症対策チーム (ICT)
- 栄養サポートチーム (NST)
- 緩和ケアチーム
- 褥瘡対策チーム など

感染症対策チーム

- 薬剤部、検査部、診療科医師、看護師
- 院内感染の防止と抗生物質の適正な使用を実現するためのチーム

感染症対策チームの活動

検査部での細菌検査の結果から、病棟で同じ抗生物質に対する薬剤耐性菌が検出



検査部のICTスタッフが薬剤部に連絡



薬剤師のICTスタッフが病棟における抗生物質の使用状況をチェック



ICTチームが院内感染を疑われる病棟を回診、抗生物質の使い方を指導

リスクマネージメント部門

- 個人で対応するのではなく、組織全体で対応することが重要
- エラーを誘発しない環境の整備
- エラーが事故に至らないシステムの整備
- 医療安全管理対策室
 - 医師、看護師、技師、事務職員
 - 部署から集まってくるレポートの分析
 - ヒヤリハット
 - インシデンス